



人をつなぎ 未来をつなぐ
明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

明石市教育委員会事務局学校教育課

改めて熟議とは

コミコミスクスクでも再三“熟議を”とお願いしているところでありますが、「熟議と話し合いは違うの?」といった声もお聞きします。そこで「改めて熟議とは」を整理してみました。

熟議とは（文科省資料より）

(www.mext.go.jp/b_menu/shing/chukyo/chukyo5/gijiroku/_icsFiles/afiedfile/2010/08/30/1296708_2_1.pdf)

多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。

政策を形成する際、

- ①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
 - ②課題について学習・熟慮し、討議することにより、
 - ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
 - ④解決策が洗練され、
 - ⑤個人が納得して自分の役割を果たすようになる、
- というプロセスのことを言う。

学校・地域・保護者が同じゴールを目指すチームが学校運営協議会だと考えます。保護者・地域住民・学校の三者は一つのチームであり、チームとしてのゴールをはっきりさせ、そのゴールを達成するための戦略・戦術を練るために、地域の状況、学校の状況等をふまえ、情報を把握・整理しながら、十分思いをめぐらし、念入りに検討していくのが熟議と考えるとわかりやすいのかなと思います。

そんなことを考えているとき Y!ニュースで「校長と PTA 会長が実現“保護者と学校が本音で意見交換できる場”はいいことばかりだった」という記事が目にとまりました。

(<https://news.yahoo.co.jp/byline/otsukareiko/20190602-00128224/>)

神戸市立本多間中学校で毎月開かれる PTA 運営委員会は保護者なら誰でも参加でき、校長先生と自由に意見が交換できる場になっているそうです。毎回大勢が参加し、盛り上がり、活発な議論がなされ、そこから保護者の願い、学校の願いから実現したことがたくさん生まれてきたという記事でした。学校と保護者が同じチームとして同じゴールを目指す仕組みが出来上がったのだと思います。記事には意見交換とありますが、毎月チーム本多間での熟議がなされていたのではと思います。熟議は変化・進化の原動力になっていくのではと思います。

また、学校の授業でも、子どもたちが身に付ける必要がある問題解決の思考ツールとして熟議を取り入れていく必要があると思います。熟議は来年度から小学校に入ってくるプログラミング教育を教科学習の中に取り入れていくヒントになるのではと思っています。

熟議についての参考として、鈴木寛先生、苫野一徳先生の下記の図書がわかりやすいのかなと思います。



トライやる・ウィークとコミュニティ・スクール

6月3日（月）から6月7日（金）までの5日間実施された本年度のトライやる・ウィークも無事終了しました。トライやる・ウィークとコミュニティ・スクールって関係ないように見えますが、「地域を支え、社会を創る子どもたちを育てる」という視点から考えると新たな可能性が見えてくるのではと考えます。市内でもいくつかのまちづくり協議会さんがトライやる・ウィークの子どもたちを受け入れられておられます。そこには地域の中での活動にふれ、地域を知る中で、地域に関心を持ち、地域を支える大人になってほしいという願いをお持ちなのではと思います。

そこでトライやる・ウィークを熟議にかけてみるのはいかがでしょう。学校運営協議会での熟議に、また、校区 UNIT での熟議にと、熟議にかけてみることでトライやる・ウィークでのゴールがはっきりとし、ゴールに向けての戦略・戦術を練ることで「地域を支え、社会を創る子どもたちを育てる」トライやる・ウィークのデザインができてくるのではと思います。

小学校で地域学習を積み重ね、社会に目が向き始めた子どもたちが、地域の課題に向き合い、自分たちができることを考え始めたり、地域の環境や地域の歴史・伝統・芸能に興味を持ち、より深く調べ始めたりと、地域の中で自分たちが考えたことを具体的な形にしてみるのがトライやる・ウィークになるのも面白いですね。「起業ごっこ」になるかもしれませんが、例えば高齢化が課題となる地域では、高齢者の生活を支援する活動に目を向けた子どもたちが、「お買い物承りますカンパニー」・「一緒にお話カフェ」といった場をつくり、自分たちで運営してみるという活動が生まれてくるかもしれません。また、地域の草木や生き物に興味を持った子どもが環境マップをつくり小学校3年生の環境体験学習でガイド役として案内するという活動が生まれてくるかもしれません。地域の課題に向き合い、自分たちができることを考え、具体化していこうとする子どもたちを信じて、子どもたちに任せて、子どもたちを支えていくのも、コミュニティ・スクールとしての役目ではと思います。これからの時代で必要となる資質・能力を育成するという視点でトライやる・ウィークだけでなく、いろいろなことを見直さなければならぬ時期にきているのかもしれません。

ビジョンを持ってトライやる・ウィークにチャレンジされたのが松が丘小です。松が丘小は、“卒業した子どもたちが何年後かに学校ボランティアとして学校に戻ってきてくれたらいいな、学校ボランティアを経験した子たちが、地域活動にも参加してくれるようになったらいいな”といった夢を描かれています。子どもたちを信じて、子どもたちに任せて、子どもたちを支えるということをベースにし、トライやる・ウィークにやってきた子どもたちが3年生の放課後学習教室の運営にチャレンジしました。5日間の「苦手をなくそう放課後教室」を運営する中で、子どもに係る楽しさを感じながら、成長してくれたのではと思っています。

（松が丘小HPに教室の様子が掲載）



「松っ子教室」が始まりました

松が丘まちづくり協議会のみなさまの手による1年生を対象にした手作り工作や昔遊びを中心に行う「松っ子教室」が今年も始まりました。10年以上続く取組で、年間25回開催され、松が丘の子どもたちのほとんどが「松っ子教室」の経験者です。指導ボランティアさんの中には、卒業生を含め子どもたちの顔と名前が頭に入っている方もおられるなど、学年があがっても甘えられる存在として指導ボランティアさんは子どもたちにとって大切な存在となっています。



（松が丘小HPに教室の様子が掲載）

（文責 学校教育課コミュニティ・スクールコーディネーター 北本章）